

2025年度 長岡大学シラバス

授業科目名	経営分析 (Business Analysis)						担当教員		喬 雪氷 (キヨウ セツヒヨウ)
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL	
	2037-2-33-109	専門科目	選択	2 単位	3 年次	後期			
2024-25年度 入学者(24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL	
	2437-2-33-048	専門科目	選択	2 単位	3 年次	後期			

① 授業のねらい・概要
経営分析とは、公表された財務諸表や報告書を対象に数値を解釈したり、比率等を使用したりして、数値の背後に隠されたものを推理することを通して企業の実態を明らかにする会計学の専門分野をいう。本講義はケースを用いながら、数字の奥に潜む事実を見極める能力を高め、財務諸表分析の手法を習得することを目標とする。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力/情報収集・分析力
③ 授業の進め方・指示事項
各回の講義前に、指定する範囲について教科書を必ず一読する。事後学習に関しては、毎回配布するレジュメを復習する。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
簿記・会計関連の科目を履修していることが望ましい。
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。
林總(2023)『新版 経営分析の基本』日本実業出版社
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
金子智朗(2020)『理論とケースで学ぶ財務分析』同文館出版
徳賀芳弘(2016)『京都企業 歴史と空間の産物』中央経済社
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)
松下幸之助や稻盛和夫のような名経営者たちは、財務諸表が読めるだけでなく、財務諸表を分析して、経営に潜む異常点を見つけ出し、しかるべき手を打ってきたと言われる。数字の奥に潜む事実を見極める能力こそが、経営者にも、経理担当者にも、そしてすべてのビジネスパーソンにも必要である。
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 貸借対照表分析における各指標・比率の意味を理解し、事例を使い説明することができる。
(ii) 損益計算書分析における各指標・比率の意味を理解し、事例を使い説明することができる。
(iii) 現金の流れに関連する各指標・比率の意味を理解し、解釈することができる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 貸借対照表分析	貸借対照表分析における知識を応用し、会社の事例を分析することができる。	貸借対照表分析における各指標・比率の意味を理解し、事例を使い説明することができる。	貸借対照表分析における各指標・比率を使い、B/Sの一部を解釈することができる。	貸借対照表の各数字の意味を理解し、指標・比率を説明することができる。	貸借対照表の各数字・指標・比率の意味を説明することができない。
(ii) 損益計算書分析	損益計算書分析における知識を応用し、会社の事例を分析できる。	損益計算書分析における各指標・比率の意味を理解し、事例を使い説明することができる。	損益計算書の分析における各指標・比率を使い、P/Lの一部を解釈することができる。	損益計算書の各数字の意味を理解し、指標・比率を説明することができる。	損益計算書の各数字・指標・比率の意味を説明することができない。
(iii) キャッシュフローの動態分析	キャッシュフローに関連する指標・比率を応用し、会社の事例を分析することができる。	現金の流れに関連する各指標・比率の意味を理解し、解釈することができる。	キャッシュフロー計算書の構造および各項目の概要を解釈することができる。	キャッシュフロー計算書の構造を説明することができる。	キャッシュフロー計算書の構造を説明することができない。

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%					40%	100%
(i) 貸借対照表分析	20%					20%	40%
(ii) 損益計算書分析	20%					10%	30%
(iii) キャッシュフローの動態分析	20%					10%	30%
フィードバックの方法	毎回、講義のポイントと専門用語をまとめるプリントを配布し、書き込み欄と穴埋め箇所を設けることにより、学習した内容を再確認し知識を深める。随時小テストを実施し、採点後、解説の時間を設ける。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	ガイダンス：第1章 経営分析とは 財務諸表3表の構造	教科書 pp. 12~28 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
2	第2章 貸借対照表分析① 貸借対照表の構造・資本の調達源泉	教科書 pp. 30~41 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
3	第2章 貸借対照表分析② 資本の運用形態・ビジネスの基盤（固定資産）	教科書 pp. 42~53 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
4	第2章 貸借対照表分析③ 貸借対照表分析で使われる指標	教科書 pp. 54~67 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
5	第2章 貸借対照表分析④ 日本航空の事例・ROA・ROE	教科書 pp. 68~84 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
6	第3章 損益計算書分析① 利益とは・利益の各概念	教科書 pp. 86~96 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
7	第3章 損益計算書分析② 管理会計特有の利益概念・利益率分析	教科書 pp. 97~109 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
8	第3章 損益計算書分析③ 損益分岐点分析・シャープの事例	教科書 pp. 110~122 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
9	第3章 損益計算書分析④ ホテル業と自動車メーカーの特徴	教科書 pp. 123~136 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
10	第4章 キャッシュフロー計算書分析① キャッシュフロー計算書の構造	教科書 pp. 138~144 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
11	第4章 キャッシュフロー計算書分析② アップルとシャープの比較	教科書 pp. 145~153 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
12	第5章 生産性分析 付加価値生産性・生産性指標の種類	教科書 pp. 156~166 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
13	第6章 キャッシュフローの動態的分析① 餃子の王将とひらまつとの比較	教科書 pp. 168~174 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
14	第6章 キャッシュフローの動態的分析② アップル・ソニー・バナソニックの比較	教科書 pp. 175~185 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分
15	第7章 株式投資分析・株式分析指標	教科書 pp. 188~195 を読んでくること。配布したプリントを復習する。	120 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型ALを採用する。授業の内容を基に、毎回配布するプリントに内容のまとめ（空欄補助など）を行い、復習し、学習内容をフィードバックする。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性